

— 常呂遺跡発掘60周年講演 —

第21回



東京大学

THE UNIVERSITY OF TOKYO

文学部公開講座

10/13(金)

道民カレッジ連携講座

【常呂高校特別講座】（常呂高等学校視聴覚室 午後1時30分～2時40分）



- テーマ／近代の戦争を国民の立場から考える
- 講演者／東京大学大学院人文社会系研究科

教授 加藤 陽子 氏 (かとう ようこ)

2015年時点のある世論調査によれば、「1945年8月15日に終結した戦争について、日本がなぜ戦争をしたのか、自ら追及し解明する努力を十分にしてきたと思うか」との問いに対し、「いまだ不十分」と答えた人の割合は65%にも達しました。過去の戦争を同時代の国民は見ていたのでしょうか。国民の考え方を理解するには、歴史的にどのような方法が可能なのか考えたいと思います。

【北見公開講座】（北見市民会館小ホール 午後6時00分～9時15分）

- テーマ／北から見る日本文化—常呂遺跡群調査開始から60年の意義—
- 講演者／早稲田大学

名誉教授 菊池 徹夫 氏 (きくち てつお)

ここ北見市常呂町栄浦の地には、どうして東京大学の施設があるのでしょうか？それは、住民の大西信武さんの熱心な訴えで文学部考古学研究室が調査を開始したことに始まります。以来じつに60年、国史跡・常呂遺跡群は北日本考古学の代表的な拠点となっています。今日は、ここが日本史・日本文化全体に持つ重要性について、皆さんと考えます。

- テーマ／東京大学考古学研究室・常呂研究室と東北アジア
- 講演者／東京大学大学院人文社会系研究科

教授 大貫 静夫 氏 (おおぬき しずお)

東京大学の考古学・常呂研究室は道東での発掘調査を今から60年前に始め今まで継続しています。そして、最近では東北アジアに調査のフィールドを広げ、また常呂を舞台に諸外国の研究者・学生との国際学術交流を進めています。その取り組みについて簡単に紹介します。



- テーマ／歴史を活かしたまちづくり
- 講演者／東京大学大学院工学系研究科

教授 西村 幸夫 氏 (にしむら ゆきお)

各地で行われている歴史を活かしたまちづくりの出発点として、いかに「自分たちのまちの個性を見出すか」歴史を手掛かりに見つめなおしてみたいと思います。また、事例として北海道のまちをとりあげて、考えてみたいと思います。



主催／東京大学文学部・東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設・北見市・北見市教育委員会・

常呂高等学校振興協議会《お問い合わせ・常呂教育事務所生涯学習課社会教育係Tel.0152-54-3233》